

<帯状疱疹と帯状疱疹ワクチンについて>

2025 年 10 月度
衛生委員会資料
産業医 北村香奈

2025 年 4 月 1 日から、65 歳以上の方などを対象に、帯状疱疹ワクチンの予防接種が、定期接種の対象になりました。(定期接種対象外の方には、任意接種(原則自己負担)として、市町村によっては、助成制度があります)

そこで、その帯状疱疹とワクチンについて今日はお伝えしたいと思います。

帯状疱疹はどんな病気？

帯状疱疹(たいじょうほうしん)は、水痘・帯状疱疹(すいとうたいじょうほうしん)ウイルスが引き起こす感染症です。ウイルスの名前の通り、水痘(みずぼうそう)と同じウイルスが原因で、水痘に初めて感染し発症後、そのウイルスが体内の神経に残っていて、免疫が低下したときに潜んでいたウイルスが再び活性化して発症します。

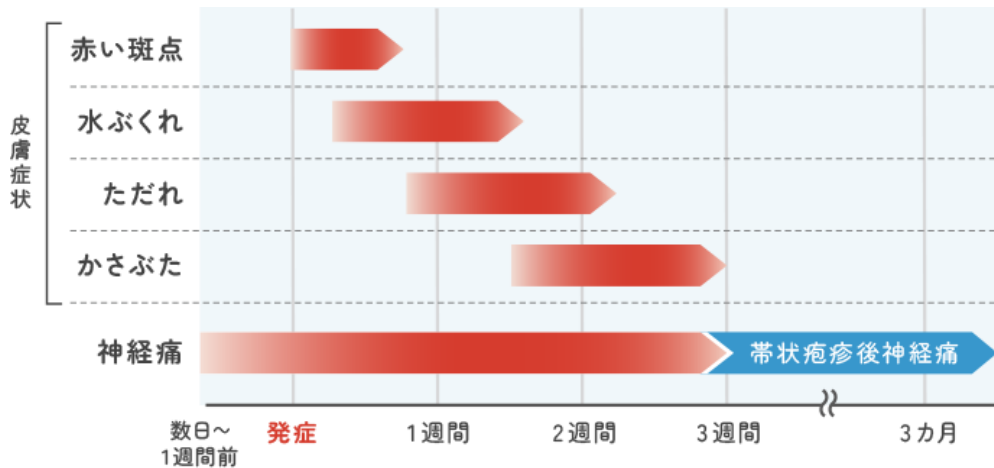
感染経路

水痘・帯状疱疹ウイルスは、初感染で水痘を引き起こした後、生涯にわたって体内の神経に潜んでいます(潜伏感染といいます)。歳をとったり、疲労などによる免疫力の低下で、ウイルスが再び活性化して「帯状疱疹」を引き起こします。帯状疱疹は加齢に伴い増加する傾向があり、50 歳代以降で罹患率が高くなるといわれています。帯状疱疹ウイルスは、水痘と同じウイルスのため、水痘にかかったことのない子どもが感染すると、水痘として発症する可能性があります。

どんな症状がでるの？

帯状疱疹の主な症状として、潜伏感染した神経が分布している領域の皮膚にピリピリした痛みが生じたり、小さい水ぶくれ[水疱(すいほう)]を伴った赤いブツブツができたりします。

帯状疱疹では、皮膚の病変が治っても数ヵ月～数年続く痛み、感覚異常に苦しむ患者さんがいます(帯状疱疹後神経痛)。帯状疱疹になった人の 10～50%程度が帯状疱疹後神経痛を発症すると報告されていますが、高齢であればあるほど帯状疱疹後神経痛を生じる可能性が高まるとされています。



顔に発症する帯状疱疹:

痛みやかゆみなど顔に違和感を生じた後、目の周りや頬、鼻、口の周りなどに皮膚症状がみられます。まれに目や耳の[合併症](#)につながることもあります。

胸や腕に発症する帯状疱疹:

ほかの部位と同じように、痛みや発疹などがみられます。まれに腕が上がらないなどの[合併症](#)につながることもあります。

下半身に発症する帯状疱疹:

おしりや足の片側に水疱ができ、痛みやかゆみがあります。歩行時や座るときに痛みを強く感じる場合があります。

首や顔に帯状疱疹が発症すると視覚や聴覚に影響を及ぼし、[日常生活](#)に大きな支障をきたす可能性があります。

帯状疱疹後神経痛（PHN）は、神経がウイルスによって傷つけられてしまうことによって引き起こされる痛みです。ときには、軽く触れただけでも痛みを感じる「アロディニア」と呼ばれる痛みを生じることがあります。

帯状疱疹はひどくなる前に早めに治療を受けることが重要です！

帯状疱疹の発疹（ほっしん）や水ぶくれ（水疱：すいほう）などは治療を行わなくても治る場合もありますが、治療が遅くなったり治療されないまま放置されると、頭痛や39℃以上の発熱などの全身症状が現れることもあります。特に首から上の帯状疱疹は、重症の場合、失明や顔面麻痺、難聴を引き起こすことがあります。発疹が消えた後も痛みが残ることがあるため、できる限り早く医療機関を受診し治療を始めることが重要です。

治療の中心は抗ウイルス薬です。

帯状疱疹の治療の中心は、水痘（すいとう）・帯状疱疹ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬です。発疹（ほっしん）が出てから72時間以内に飲みはじめることが望ましいといわれています。しかし、発疹が出てから2日以内に医療機関を受診する患者さんは少ないのが現状です。発疹に気がついたらできる限り早く受診しましょう。抗ウイルス薬を飲むことで体内

のウイルスの数が減少すれば、症状は次第に軽減します。効果が得られないからと勝手に服用をやめたりせず、指示されたとおりにお薬を飲むことが重要です。痛みが強い場合は痛みを抑える鎮痛薬や抗うつ薬を同時に使うこともあります。

带状疱疹ワクチンはなぜ必要か

年齢を重ねるにつれて水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスに対する免疫力が弱まっています。特に50歳を過ぎると、带状疱疹にかかるリスクが高くなる傾向にあります¹⁾。このリスクを軽減するため、带状疱疹の予防接種を受けることができます。带状疱疹ワクチンは2種類あります。

生ワクチン：乾燥弱毒生水痘ワクチン

接種対象者	50歳以上の者 ^{*1}
接種方法	皮下接種
接種回数	1回
接種費用 ^{*2}	7,000円～10,000円程度 ^{*3}

不活化ワクチン：乾燥組換え带状疱疹ワクチン（チャイニーズハムスター卵巣細胞由来）

接種対象者	50歳以上の者又は带状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者
接種方法	筋肉内接種
接種回数	2回 ・50歳以上の者：通常2ヵ月の間隔をおく ・带状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者：通常1～2ヵ月の間隔をおく
接種費用 ^{*2}	40,000円～60,000円程度（2回接種の合計） ^{*3}

【定期接種:大人】

以下の条件に当てはまる人は、定期接種を受けられます。対象者は接種費用の一部の助成を受けられます。詳しくはお住まいの自治体窓口にお問い合わせください。

- **年度内※に 65 歳**

※年度の初日(4月1日)から当該年度の末日(3月31日)までの間にある者

- **60～64 歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な人**
- **2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日までの 5 年間の経過措置として、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、100 歳以上(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの間に限り全員対象)となる人**

带状疱疹とその予防のためのワクチンについてご理解いただけたでしょうか。ここ数年、罹患者が増えている現状があり、また、重篤になったり後遺症に苦しむ可能性も考えると、感染予防(免疫低下を防ぐセルフケア)とワクチン接種はとても重要です。正しい知識をもとに適切にご対応いただければと思います。